



VITA PLUS  
若者・対話・地域



2006年11月11日、和歌山県立新宮高校において、飯盛義徳研究室の西田みづ恵（総合政策学部4年）、中根なゆた（総合政策学部2年）、下川佳代（総合政策学部1年）が、独自に開発した教材を活用して、起業家精神を育むためのケースメソッド授業を実践しました。この研究プロジェクトは、2006年度、SFC政策研究支援機構からの支援をいただき、4月から現地での取材、ケース教材開発を行ってきたも

のです。

飯盛研究室では、2005年度からNPO法人鳳雛塾から委託を受けて、起業家精神育成を目的とした、高校生のためのケース教材、基礎的な経営学のテキスト開発、カリキュラム設計、そして人材育成を通じた地域経済活性化を実現するための具体的方策についてのアクションリサーチに取り組んでいます。今まで、佐賀県、高知県の県立高校でケースディスカッション授業を行い、高い評価をいただきました。地域をテーマとしたケースメソッドを導入することで、地域の多くの方々の参加も実現し、高校生の主体性、問題発見解決能力、コミュニケーション能力の向上につながるのではないかという仮説をもとに、実践を行っています。

今回の実践は、新宮高校の高校生の依頼が発端です。授業では、新宮高校の生徒14名、先生3名、NPOの理事長、大学の先生など地域の方々6名が一緒になって、地域活性化を果たすための白熱した議論が繰り広げられました。ケース教材の題材は、2004年度世界遺産に登録された紀伊山地の霊場と参詣道（熊野古道）、主人公は熊野古道のカリスマ語り部である坂本勲生さんです。授業ではまず、地域で活躍する語り部や世界遺産登録事項や熊野古道について問いかけ、全員でケース教材の内容を確認し、主人公の置かれている立場について検討しました。そして、世界遺産登録後の熊野古道周辺と語り部さん自身の変化について話し合い、比較をしながら、今後の取り組みについて議論を行いました。最終的には、地域の方を含めた4、5人のグループを構成し、各グループが語り部さんのこれからの活動についての提案を検討し、それぞれのアイデアを模造紙にまとめて発表しま

した。授業の後半では地域の方々のみでなく、高校生同士による講評や意見交換が行われ、終始白熱した議論が展開されました。

授業後のアンケートによると、高校生からは、「楽しく、勉強になった」、「是非、また友達を誘って参加したい」という積極的な意見が寄せられました。また、先生方や参加していただいた地域の方々からは、「生徒達の積極性、発言内容に感激した」、「世代を超えてのディスカッションが非常にためになった」、「このような授業は継続して実施すべきだ」と高く評価をいただきました。このように地域を題材としたケースメソッド授業を通じて、高校生、地域の方々、そしてケースリーダーを務める大学生との世代を超えたネットワークを形成し、交流を深めることによって地域活性化に少しでも貢献できるように活発に活動を行っていきたいと思います。（中根なゆた）